

# インド古代文明を 生んだ2つの大河



前2300年ごろ  
前1000年ごろ

古代インドでは、  
インダス川で古代文明が栄え、  
その後ガンジス川流域に  
アーリヤ人の文明が成立した。

## インダス川流域に計画的な 都市を築いたインダス文明

前2300年ごろ、インド北西部(ハラ  
ツパーやモヘンジョダロなど)インダス  
川流域中心に南アジアの文明が生まれ

た。きわめて綿密な計算の上に都市をデ  
ザインしたインダス文明である。

都市は城塞と市街地に分けられ、城塞  
には各種の公共施設があり、市街地の外  
には墓地が置かれていた。市街地は、整  
然と基盤目状に区画された大通りや小路

に、焼瓦<sup>カキ</sup>でできた家々が建ち、井戸や  
炊事場、洗濯場があった。大通りの地下  
には下水道が整備され、清掃用のマンホ  
ルもあった。だが、権力を象徴するよう  
な王宮や王墓、神殿が発見されておらず  
政治のようすはわかっていない。

また、赤地に黒の彩文土器、石器、青  
銅製の武器や人像、石製の印章(そこに  
刻まれたインダス文字は未解読)を使用  
し、メソポタミア(P18参照)とも海上交易  
を行っていた。

インダス文明はドラヴィダ系の民族が  
担っていたと考えられ、その遺物に、ヒン  
ドゥー教のシヴァ神に似た像も見つかっ  
ており、現在まで続く南アジア文化へ影響  
を与えたと推察される。そして、アーリヤ  
人の移住以前、前1800年ごろから、環  
境破壊による砂漠化や洪水、河川流路の  
変更などさまざまな理由によって衰退へ  
と向かっていった。

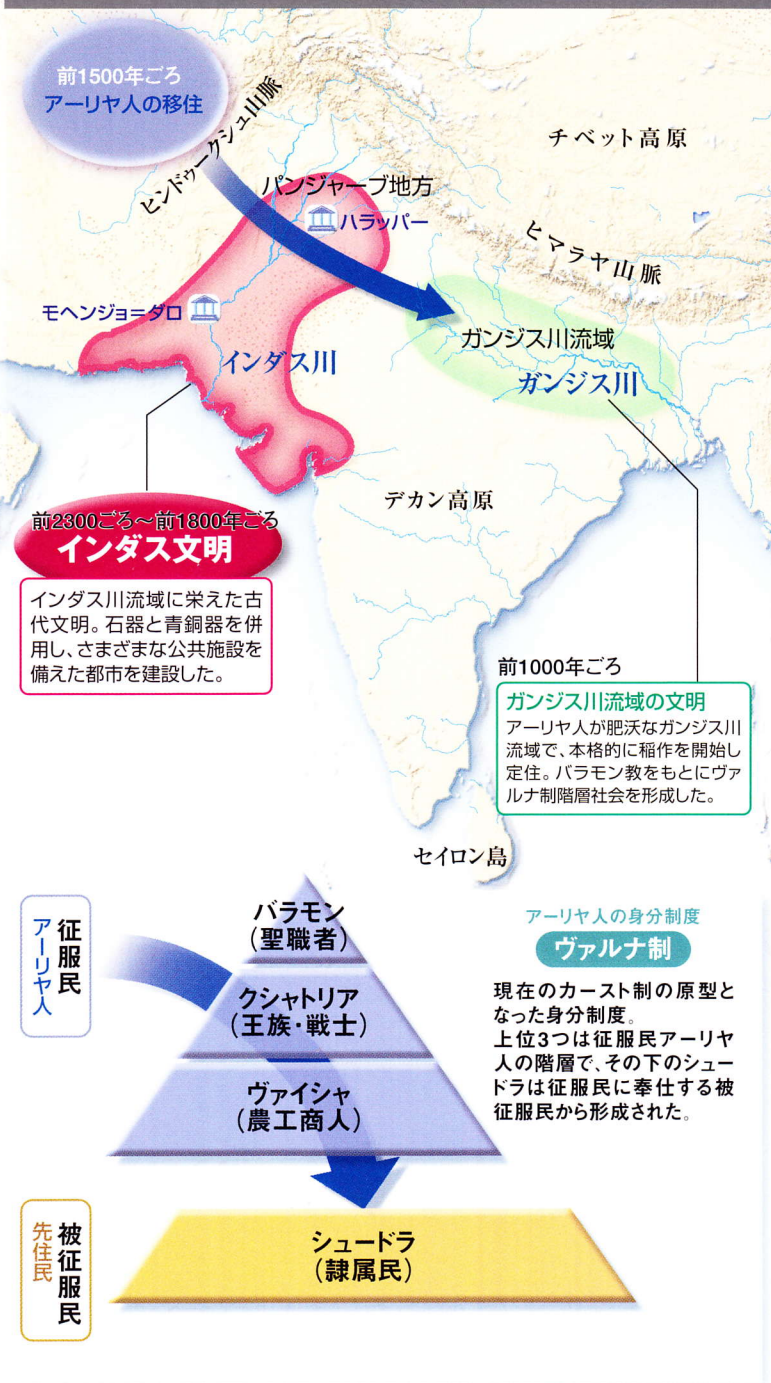
## 遊牧民アーリヤ人が築いた ガンジス川の文明

イラン高原で遊牧をしていたアーリヤ  
人が、インダス川上流のパンジャーブ地方  
に入ってきたのは、前1500年ごろであ  
る。アーリヤ人はインドヨーロッパ語系の  
民族で、都市をつくらず、牧畜と農耕を  
営みながら先住民を支配していった。

さらに前1000年ごろ、アーリヤ人は  
肥沃なガンジス川流域へ進出し、稲作を  
開始、定住生活を始めるとともに、階層  
社会を形成した。最上位に聖職者バラモ  
ン、ついで王族・戦士のクシャトリア、庶  
民で農工商人からなるヴァイシヤ、最下  
層に被征服民をシュードラ(隷属民)とす  
るヴァルナ制で、これが、インドで現在ま  
で続くカースト制度の原型である。

この時期、インド最古の聖典『リグヴェ  
エーダ』をはじめ、サンスクリット語で編  
纂された多くのヴェーダを聖典とし、バラ  
モン階級を中心にして発展した宗教を、  
のちのヒンドゥー教から区別して、バラモ  
ン教とよぶこともある。

## インダス文明とアーリヤ人の移住



Key Word **モヘンジョダロ**

1922年に発見された遺跡。ハラッパーとともにインダス文明の政治・経済的な中枢だった。発掘されたのは、西側の小高い城塞と東側の広い市街地など。城塞の12m×7mの大沐浴場や穀物倉、市街地の公共下水道や大通り、井戸など、すべてが均一な煉瓦でつくられている。1980年に世界文化遺産に登録された。